

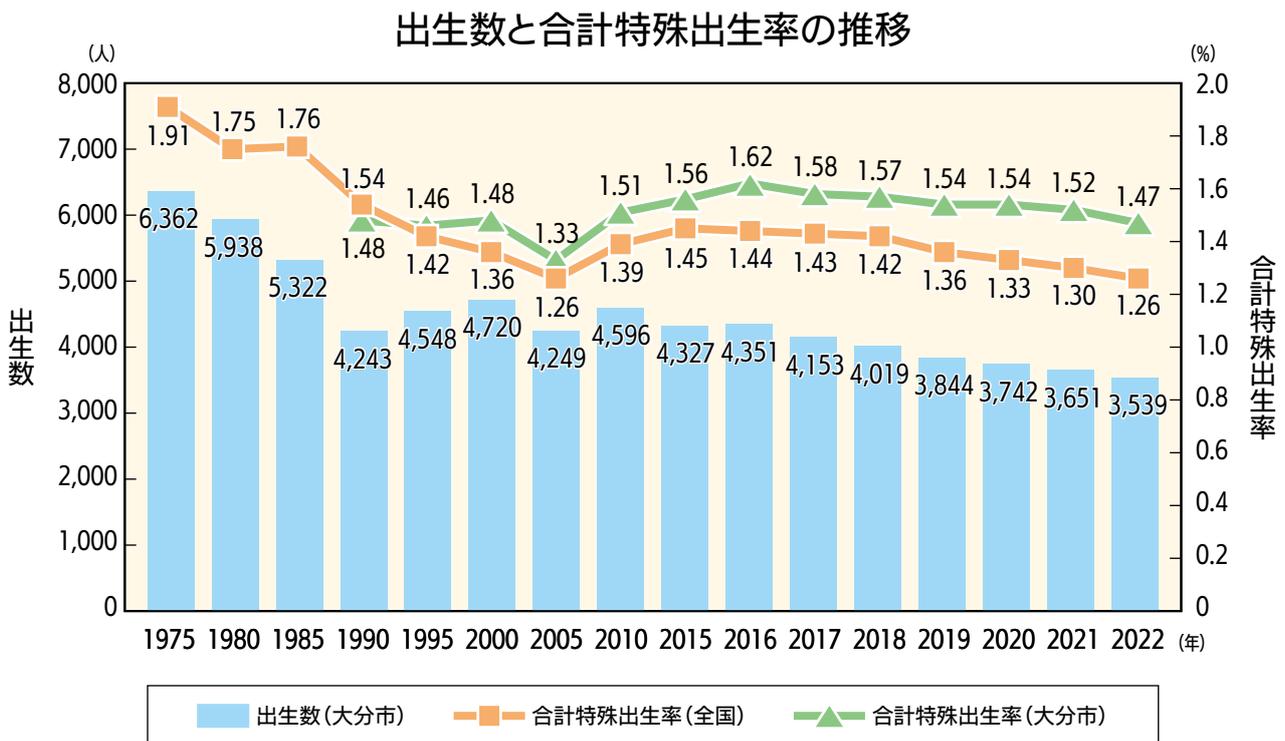
第2章

大分市の子育てを取り巻く環境

1. 出生数・合計特殊出生率^(※1)の推移

大分市の出生数は、2016（平成28）年までは増減を繰り返しながら減少傾向にありましたが、2017（平成29）年以降は毎年減少しており、2022（令和4）年には3,539人となっています。

また、大分市の合計特殊出生率は、2005（平成17）年の1.33以降上昇傾向にありましたが、2017（平成29）年以降は減少傾向に転じており、2022（令和4）年は1.47となっています。全国の1.26と比較すると0.21ポイント高くなっていますが、人口置換水準^(※2)である2.07には及ばない状況です。



出典：出生数 大分市『大分市統計年鑑（令和4年版）』
合計特殊出生率 厚生労働省『人口動態統計』、大分市保健所

※1 合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときのこどもの数に相当します。

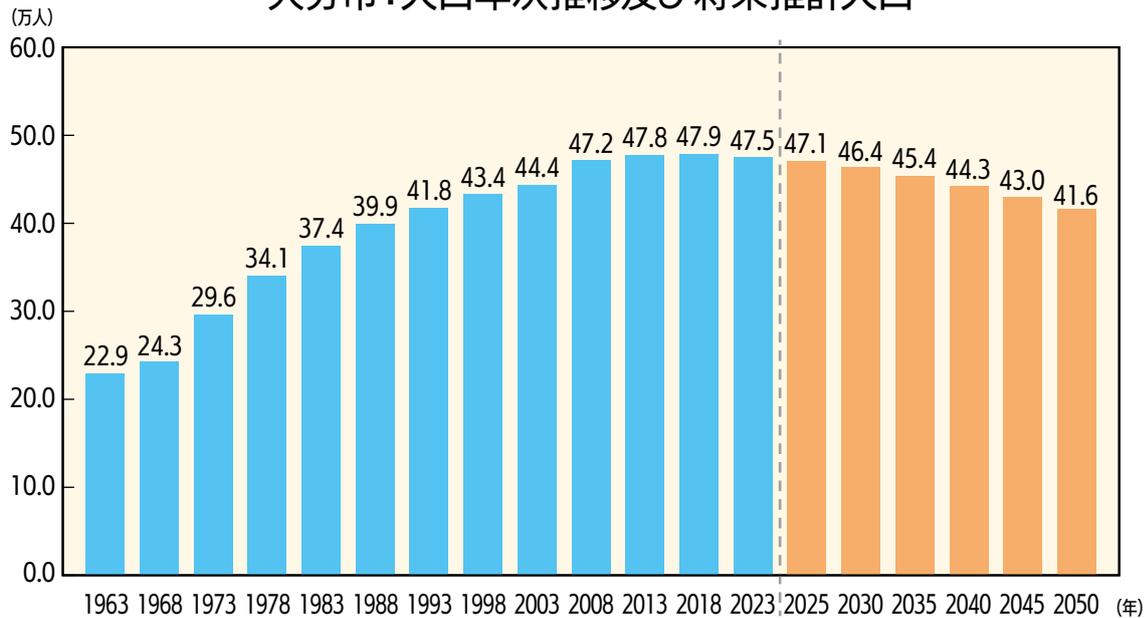
※2 人口置換水準とは、現在の人口を維持できる合計特殊出生率の目安のことです。国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集（2024）」によると、2022（令和4年）年時点では、2.07となっています。



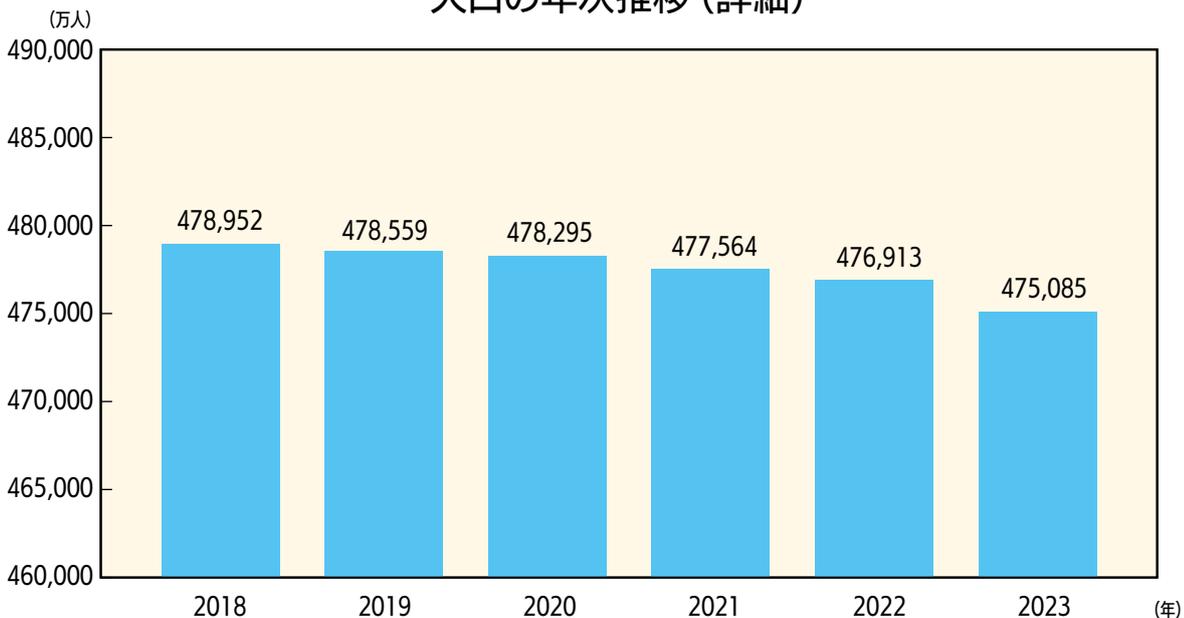
2. 人口推移と将来推計人口

大分市の人口は、2017（平成29）年以降、減少傾向が続いています。また、今後の人口について、2020（令和2）年の国勢調査をもとに2023（令和5）年に国立社会保障・人口問題研究所が公表した推計では、2025（令和7）年には471,405人、2030（令和12）年には463,901人とされ、その後も減少していくことが見込まれています。

大分市：人口年次推移及び将来推計人口



人口の年次推移（詳細）



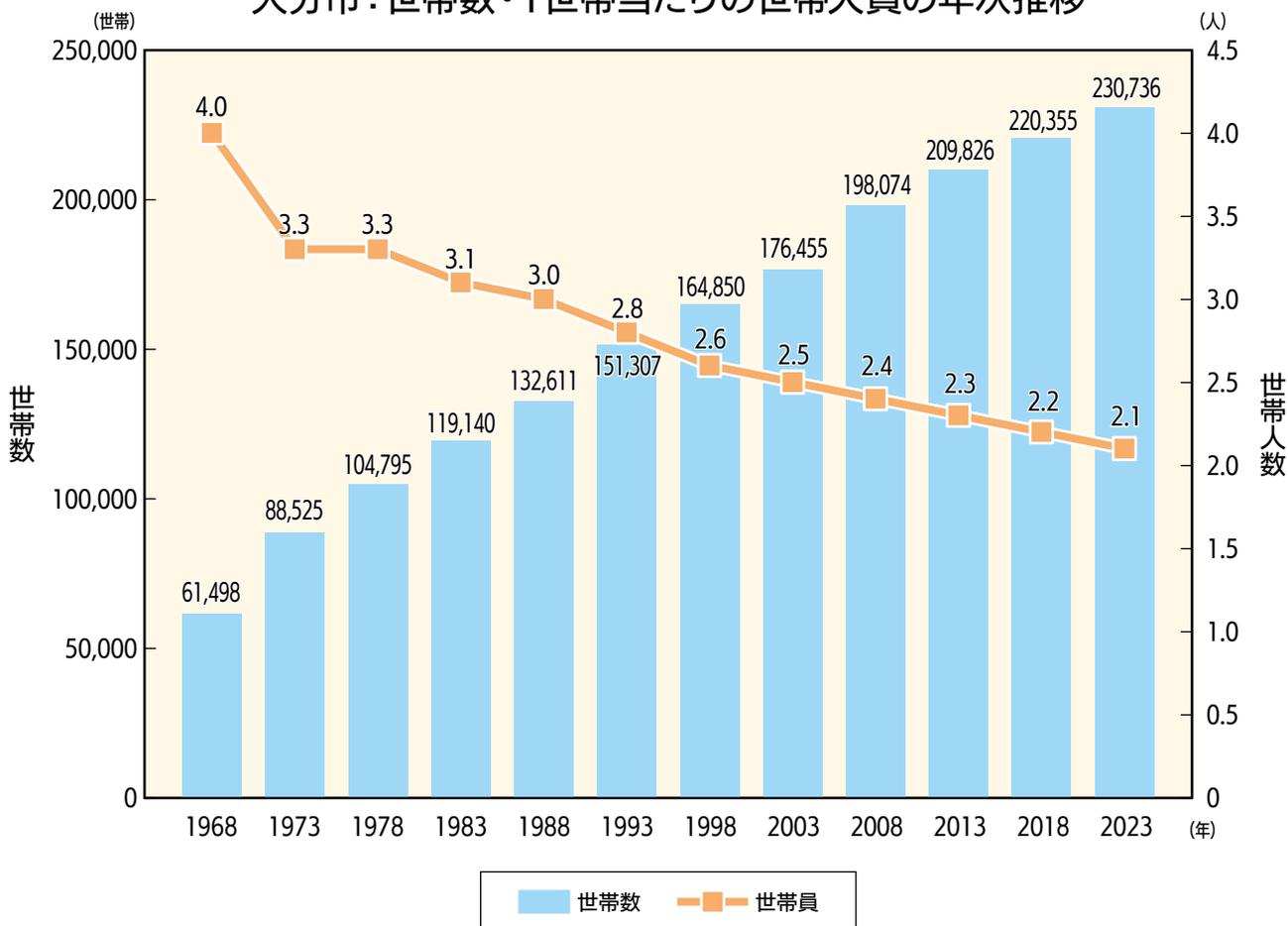
出典：実績値 大分市『住民基本台帳各年9月末』

推計値 国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（令和5（2023）年3月推計）

3. 世帯人員の推移

大分市の世帯数は一貫して増加傾向にあり、2023（令和5）年9月末現在で230,736世帯となっています。一方、一世帯当たりの人員は年々減少傾向にあり、2023（令和5）年9月末現在で2.1人となっており、小規模化が進行しています。

大分市：世帯数・1世帯当たりの世帯人員の年次推移

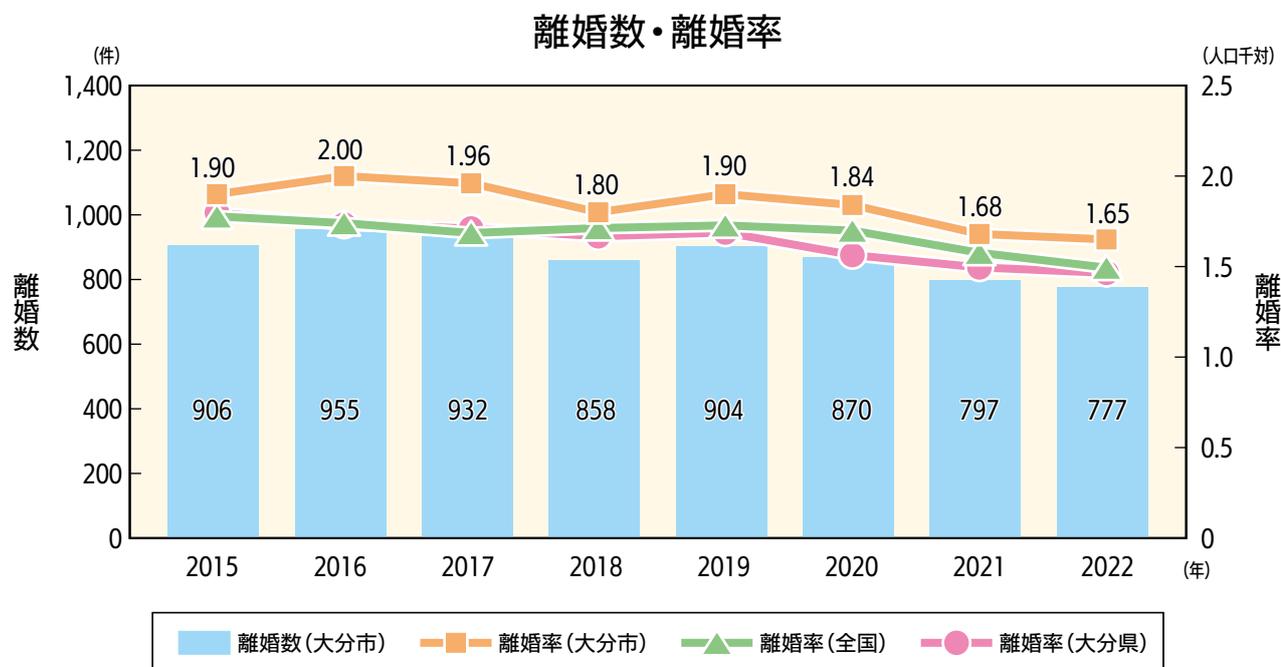
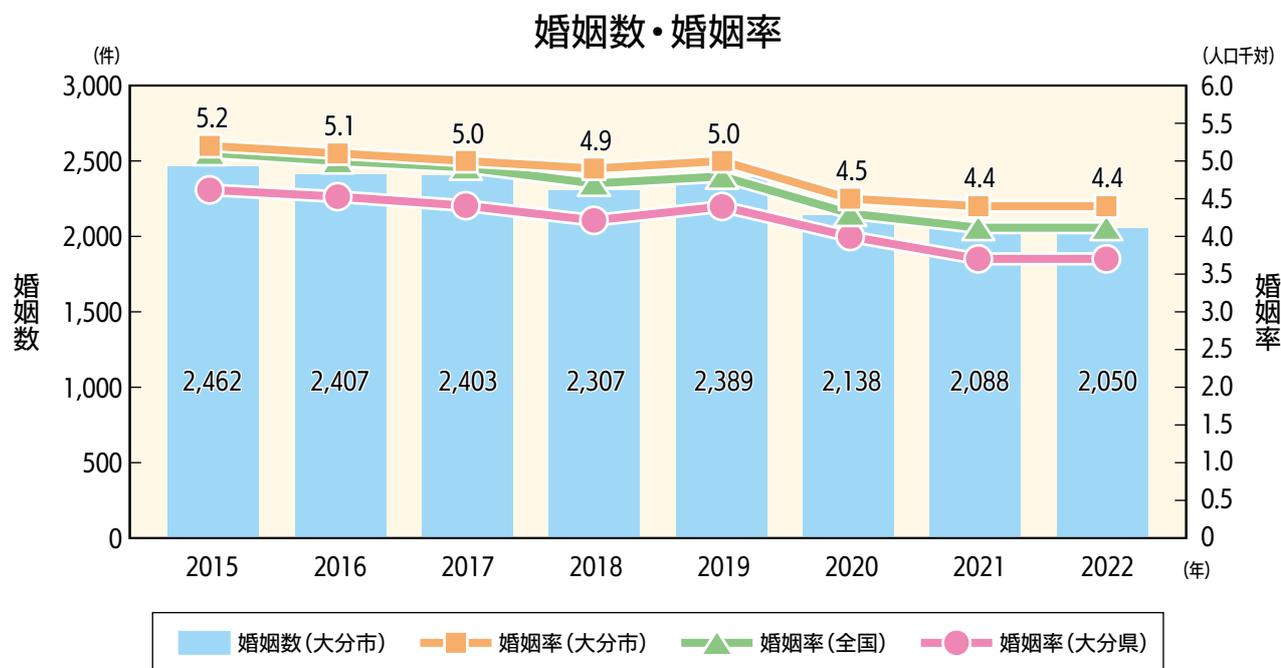


出典：大分市『住民基本台帳各年9月末』



4. 婚姻数・婚姻率と離婚数・離婚率の推移

大分市の婚姻数は、2015（平成27）年の2,462件から増減を繰り返していましたが、2020（令和2）年以降は減少傾向にあります。離婚数は、2016（平成28）年の955件以降は減少傾向にあります。

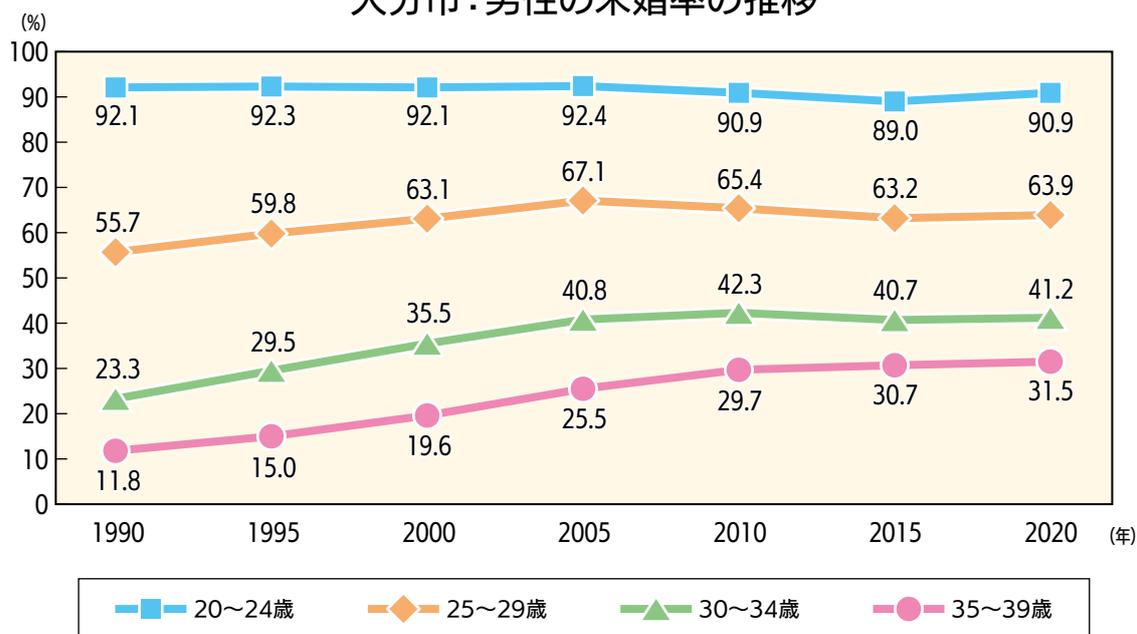


出典：厚生労働省『人口動態統計』

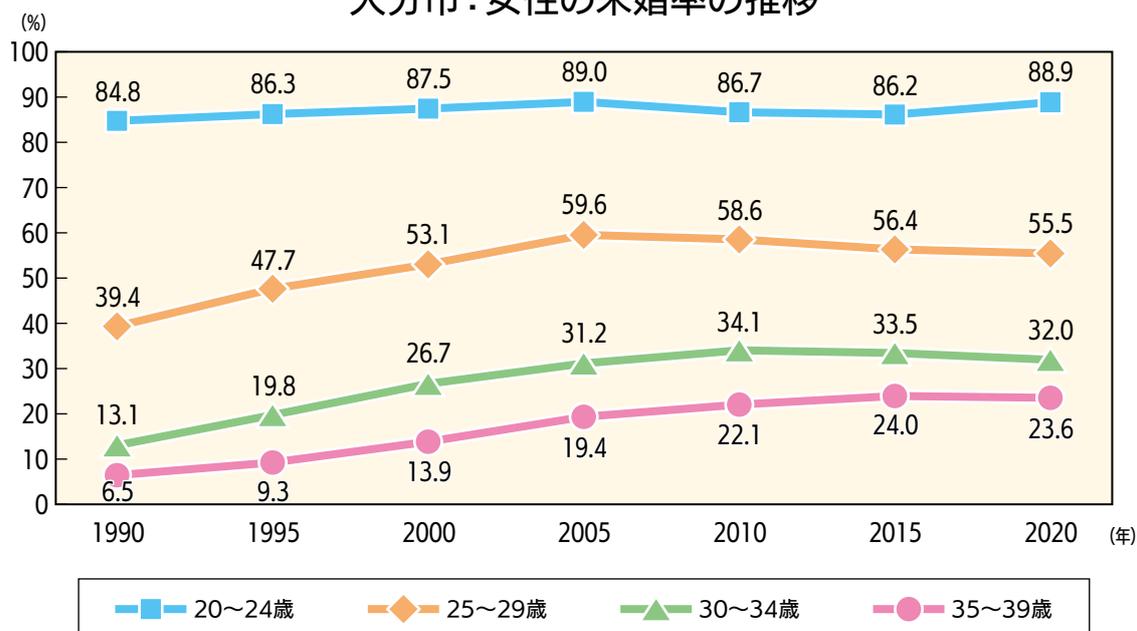
5. 未婚率の推移

大分市の年齢5歳階級別未婚率は、2015（平成27）年と2020（令和2）年を比較すると、顕著な変化は見られないものの、男性は、すべての年齢層において上昇しており、女性は、20代前半は上昇していますが、20代後半以降の年齢層は減少しています。

大分市：男性の未婚率の推移



大分市：女性の未婚率の推移



出典：総務省統計局『国勢調査』

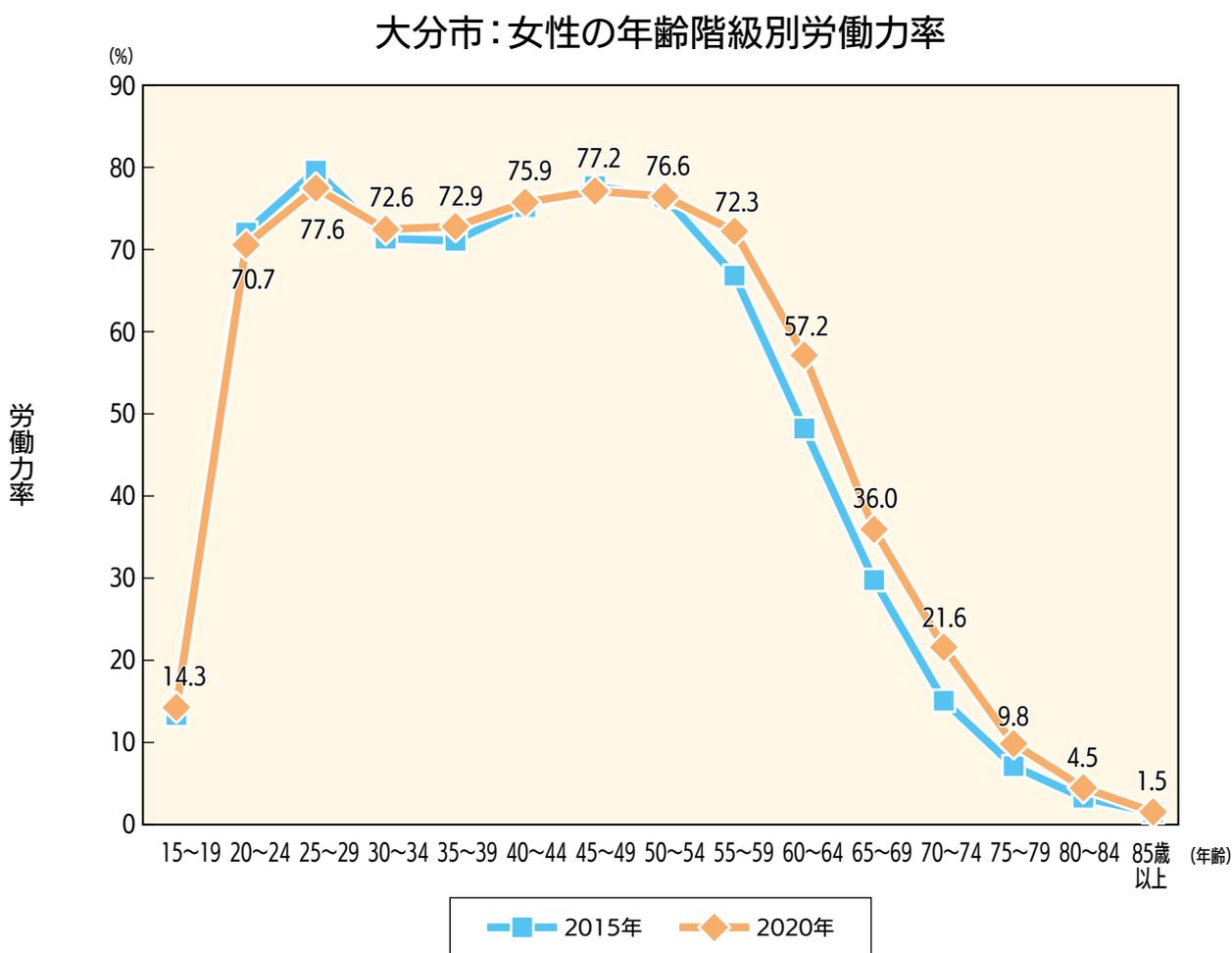


6. 女性の労働力率 (※1)

大分市の女性の労働力率を年齢別にみると、25～29歳と45～49歳を頂点とし、30～34歳、35～39歳で一旦沈みこむM字型を示しています。

一般に女性の就業率は、学校卒業後の年代で上昇し、その後、結婚・出産期に一旦低下し、子育てが落ち着いた時期に再び上昇するという、M字曲線を描くと言われています。

2015（平成27）年と2020（令和2）年を比べると、30歳以上は増加傾向にあり、特に50歳以上はその傾向が顕著となっています。



出典：総務省統計局『令和2年国勢調査』

※1 労働力率とは、15歳以上の人口のうち、「就業者」と「完全失業者」の人数を15歳以上の人口で割った値です。